

# 冬の虹

二十五回生

牧村(山崎)佳那子

ライラック フランス語ではリラ



世田谷に熊蟬鳴く日主婦放棄

ららろ鳴く充電中の灯がぼつん

聞かぬ耳聞こえぬ耳やらちゃんらんこ

老人の爪弾くギター冬の月

ふたりで決める行くか戻るか冬の虹

11号以来久しぶりに投稿戴きました。体調が少し悪く介護の必要なご主人との二人だけの日常を詠まれています。

ご自身はお元気でボランティア活動もされるなか、伯母上の「鷹」同人、後藤綾子様の影響で始めた俳句を作り続けておられます。

後藤様は確か千里山会館の近くで「後藤齒科医院」を開業されていた女医先生ですが、俳句は雨月、菜殻火を経て鷹入会。鷹俳句賞、角川俳句賞を受賞されました。編集部

なお、文中のカットにはHP「季節の花 300」所載の花の写真を利用させて頂きました。

夫つまの蹠あ吾の鬱雨のライラック

座布団と座車の暮らし額の花

鰻食ふ路面電車の響く店

秋の日の真っ向からや車椅子

襟くぬぎの実いざ七十の背と伸ばす